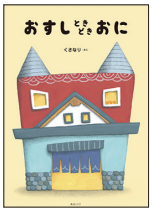
episode 5　食べる楽しさに目覚めさせた鬼

投稿者　1854 さま（京都府）



『おすし ときどき おに』
くさなり 作
みらいパブリッシング
2019年

一人息子は、食が細かった。それどころか、そもそも食べることに無関心。
子供が好きそうなお菓子にさえ、息子は全く見向きもしなかった。
そんな初孫を見兼ね、私の母は、美味しそうな食べ物の絵本を片っ端から贈ってくれた。
それらの中で、特に息子が気に入った一冊が、この『おすし ときどき おに』だった。

回転寿司のレーンに、お寿司に雑じって「鬼」が流れてくるというストーリー。その鬼は、大人には見えなくて。
だから、お父さんが鬼のお皿（青鬼）を取り、醤油をかけて食べてしまいそうになって……
間一髪でその青鬼を助け出すシーンに、息子の目は輝いていた。
そして、「お終い」と絵本を閉じると、息子はこう言った。
「ボクも『ぐるぐるまわるおすしやさん』に行きたい」と…。
息子が自分から飲食店に行きたいだなんていったのは初めてで。だから私たちはすぐに近所の回転寿司に出掛けた。
絵本と同じく、親子三人で。その道中、息子は「パパも、鬼を食べちゃダメだよ」とご機嫌だった。

レーンを凝視する息子の目は、いつになく真剣で。あれ程、食べ物をじっと見つめたのは初めてだったのだろう。
それで美味しそうに思えたのかもしれない。
それまでにも何度か来たことはあったが、息子が自分からお皿を取ったのは、この日が初めてだった。
その記念すべき一皿は、玉子。
それを頬張った息子は、「おいしいね」と笑うと、鮪や海老、イクラ、デザートのプリンまで平らげた。

その帰り道。「鬼は回ってきてた？」と尋ねた私に、息子は満足そうに微笑んでこう答えた。
「ヒミツ」と…。
大人には見えていないだけで、鬼は本当に回っているのかも。

この日を境に、食べる楽しさに目覚めた息子。
でも、妻の手料理よりも回転寿司にずっと夢中で……。それが悔しい妻は、ただ今、猛特訓中。
お寿司屋さんの玉子焼きと、巻き寿司で鬼の顔を作ることを…。
でも妻よ。それじゃあ、鬼を食べることになっちゃうんじゃ……。

「絵本の日アワードin FUKUOKA 2021」投稿作品より

本連載は「医療法人元気が湧く」が主催する“絵本の日アワード”に応募された作品を掲載していきます。毎年、300～450編の応募がある「絵本にまつわるエピソード」の作品から、「絵本の魅力」と「絵本のチカラ」のつまったエピソードを選び、その魅力と感動を読者の方々にも共有していただきたいと願って、投稿者の了解を得て紹介しています。
さらに、人に影響を及ぼした絵本のバックグラウンドについて、司書の専門的な視点による解説を加え、一冊の絵本をある部分では“深く”、そしてある部分では“広く”、興味を広げていただきたいと企画しました。

“くさなり”って、なぁんだ？

絵本界に、また新たな作家が誕生しました。作家名は“くさなり”、漢字では“草成”と表記する女性です。この名前は、植物になりたいという気もちから生まれたといいます。なんでも、自身がストレスを感じているときに、人間ではないものになりたいと思い、生きもののように複雑な感情がなく生きているものは植物なのかなと考えた発想から命名されたのだそうです。

デビューのきっかけは、近年増えている、絵本の賞を登竜門とするものです。2019年に、“絵本出版.com”が主催する絵本出版賞において、大人向け部門最優秀賞と、審査員特別賞をW受賞し絵本作家としてデビューしました。

ジャーン！「絵本出版賞」

日本国内に数ある絵本の賞のひとつ絵本出版賞は、会社事業を「出版企画」とするスプリングインク株式会社が運営している“絵本出版.com”が、2018年に創設した新しい賞です。「絵本を出版したい人の夢を応援するプラットフォーム」とのコンセプトに、大きな期待を抱いて応募する方も多いのではないでしょうか。

その目的を体現するかのように、年に２回開催されており、2023年５月には第11回の募集が締め切られた、もっともハイペースな絵本の賞です。

とりわけ、「大人向け絵本部門」が設けられていることが、大変興味深いです。創設時は、「絵本部門」と「絵本のストーリー部門」、そして「大人向け」の３部門でしたが、2022年に「赤ちゃん・学べる絵本部門」が新設され、現在は４部門で構成されています。単に、絵本の賞に参入したわけではなく、絵本文化の未来を見据えた、新しい賞といえるでしょう。

おすし ときどき おに

第２回絵本出版賞において、審査員特別賞を受賞した作品が『おすし ときどき おに』です。作品のアイデアが生まれたのもユニークなのです。

作者が回転寿司に行ったとき、ぐるぐる回るお皿を見ていたら、その昔のバラエティ番組「爆笑レッドカーペット」を思い出したことが発端になっています。芸人たちが動くカーペットに乗って登場し、ショートネタを披露して、そのままベルトコンベアで消えていく番組です。そんなお笑い番組からアイデアを得た絵本が『おすし ときどき おに』というわけです。

偶然から生まれた絵本作家さん

第２回絵本出版賞で、『おすし ときどき おに』とW受賞した大人向け絵本部門最優秀賞作品は、『植物界』（ポエムピース）です。この２作品を並べると、同じ作家が描いたとは思えない、まったく異なるタッチに驚きます。

くさなり氏は、この２作を制作した際、特に絵本の賞に応募しようと思って描いたわけではなく、描き終えた後に、たまたま絵本出版賞を見つけ、「大人向け絵本部門」だったら『植物界』が合うかもしれないと感じて、偶然の流れで応募しているのです。

『おすし ときどき おに』に至っては、制作したまま放置していた原画を、「せっかくだから試しに送ってみよう」と軽い気もちで、『植物界』に付け加えて応募したにすぎません。それが審査員特別賞を受賞し、あれよあれよという間に絵本になったというわけです。

この２冊を出版した後には、中国の詩人ティエン・ユアン氏の童話に絵を描いた『ねことおばあさん』を出版します。続けて、『ゆめげきじょう』、『新月くん』（よしだみなこ作）、『たね』、『よだれだらだら』（ともにみらいパブリッシング）と、デビュー４年にして、溢れる才能をふんだんに発揮している絵本作家が、くさなり氏なのです。

文献
1）スプリングインク株式会社：あの絵本はこんな発想から生まれた！独特の質感で世界を描く絵本作家くさなりさんにインタビュー，絵本出版.com HP https://ehonpub.com/2020/09/29/interview/ 2020/9/29